

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270101151		
法人名	社会福祉法人 敬仁会		
事業所名	グループホーム太陽の里		
所在地	島根県松江市佐草町72-1		
自己評価作成日	平成30年11月26日	評価結果市町村受理日	平成31年3月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成31年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

殆どの職員が介護福祉士であり、認知症介護実践者研修及び実践リーダー研修修了者もあり、専門的知識を持って入居者様に対するケアにあたっています。また、入居者様はもちろんのこと、ご家族や地域の方にとって居心地のよい場所を提供できるよう、職員は心掛けています。入居者様、ご家族様のご要望にお応えし、外出等の支援も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

現在、職員が定着しており職員同士が互いに率直な意見や気づきを伝え合うことができ、子育て中の職員にも配慮があり働きやすい環境作りが行われている。職員は、利用者がその人らしく暮らせるように利用者や家族の思いを理解し寄り添う支援に努めている。利用者は野菜を収穫して食事作りに活かしたり、花の苗を植えるなど、できることを行っている。ボランティアの来訪や公民館に事業所の便りを届けたり、一人で出かける人の情報を伝えていて実際に協力を得たこともあり地域との関係を築き支援に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに理念についての勉強会を行い、周知している。また会議等でも適宜取り上げ、理念に基づく支援ができていないか、確認している。	職員一人ひとりが理念に立ち返り、利用者を理解し寄り添った支援となっているか確認して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお店や喫茶店等にも外出している。散歩に出かけた時にも近隣住民の方と挨拶を交わしている。	散歩や地域の店に出かけたり、行事などで交流を図っている。一人で出かける利用者があった際に協力を得ることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的な活動はしていないが、尋ねられれば情報を伝えるようにしている。2ヶ月に1度開催される運営推進会議では、支援についてお話をさせていただくようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回日々のご様子や行事について、写真を使い報告している。年度末には1年間の事故・ヒヤリハット報告も行っている。いただいたご意見は会議等で共有し、次の取り組みに生かすようにしている。	日々様子や活動を報告し、意見や要望を得て運営に反映させている。会議の後には利用者と一緒にお茶や手作りのおやつを食べたり、クリスマス会などで交流する機会を作っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密には連絡を取っていないが、相談にはのっていただいている。運営推進会議での報告が主である。	運営推進会議で実情や取り組みを伝えて意見交換をしたり、情報提供を受けるなど協力関係を築いて取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で身体拘束虐待防止委員会を中心に、会議で話し合っている。また研修も受けている。施錠に関しては、安全面に配慮しつつ、基本的には自由に出入りできるようにしている。	事業所や法人の研修会への参加や会議で話し合い理解を深めている。今年度はアンケートを実施して各自で振り返りを行った。職員間でも気づきを注意し合い取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で身体拘束虐待防止委員会を中心に、会議で話し合っている。また研修も受けている。職員に過度なストレスがないか、ストレスチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体研修で学んでいる。それぞれの入居者様の気持ちを大切にした支援を心掛けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接、契約時等に説明させていただいているが、不明な点についてはいつでも質問していただけるような雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見交換を行っている。またご家族様が来所された際には、できるだけ話を伺い、意見を聞くようにしている。いただいたご意見は職員間で共有している。	面会時や運営推進会議で意見を聞いている。運営推進会議は全家族に参加を呼びかけ、毎回数名の参加がある。家族の意向に沿ったサービス提供ができるよう職員間で情報を共有し支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所会議、グループホーム会議を通じて利用者様へのより良い支援について話し合っている。また業務改善についても意見を聞き、反映させるように努めている。	管理者は業務を共にし日頃から職員の話や意見を聞くように心がけている、職員も率直な意見を伝えて皆で話し合いながら取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調や家庭事情に可能な限り配慮し、無理せず働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修に毎月参加するよう促している。法人外研修に参加した職員は、会議伝達講習をおこなっている。また必要に応じてOJTも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し、意見交換や勉強会を行っている。法人内の事業所での交換研修も行い、サービスの質が向上するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で、ご本人、ご家族から様子の聴き取りをし、安心して生活できるような環境を考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から生活歴や趣味、嗜好等の聴き取りをし、できるだけ入居後もそれらが継続出来るように考え取り入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の支援計画に沿って、日々の記録にも様子を記入している。計画に記載されていない支援も加えることが出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の洗濯物たたみ、盛り付け、掃除、新聞折り等、今まで得意だった事を活かしていただき、職員と一緒に取り組んでいただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や毎月のお便りにより、近況、日々のご様子について細かくお伝えしている。ご本人、ご家族様、職員間で気兼ねなく話が出来る機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元のお祭りに参加したり、友達に会うため他施設に出掛ける等の支援が出来た。ご家族以外のお知り合いにもいつでも来所していただけるような雰囲気作りに努めている。	地元の祭りに出かけたり、孫の結婚式、他施設の友人に面会するなど、馴染みの関係が継続できるよう家族と共に支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性やその日の気分を考慮し、席を代えたりしている。職員が間に入り、一緒に歌を歌ったり洗濯物をたたむ等している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への転居、また当施設にて亡くなられたご家族様も気軽に訪問していただけるよう努めており、実際ボランティアで来られる方もおられる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や表情、行動から入居者様の思いや希望を読み取るようにしている。問題が生じていればカンファレンスを行っている。またグループホーム会議でも検討している。	利用者の行動や表情、会話などから思いの把握に努め、会議などで話し合い情報を共有している。居室担当を決め情報や思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族からの聴き取りを行い、職員間で共有している。入居後もご家族様来所時にお尋ねしたり、今後に活かせる点などを共有出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に活動の様子や健康状態、顔色や表情を記載し、職員間で共有するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人一人が安全に過ごしていただくための努力は行っているが、生活を活動的で張り合いのあるものにするには、更に検討と計画と努力を要する。	毎月の会議で一人ひとりについて話し合い、家族の希望や意見を取り入れ作成している。会議に参加できない場合も事前に意見をもらい作成に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	グループホーム会議で一人一人の生活全般について改善すべき点、継続すべき点等を話し合い、ケアの向上に生かしている。カルテ以外にも申し送りノートを活用し、気づきや情報を職員間で共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスとの合同開催行事を行ったり、遊びに行くなど、交流している。またご家族様がお住まいの地域のお祭り参加、同級生に会いに出掛ける等の支援にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との繋がりという点では、事業所としては努力してはいるが、入居者様一人一人が出来ているかという点で不十分な点がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望された方は、馴染みのかかりつけ医との関係が持続されている。受診時には職員が付き添い、ご家族に報告している。また体調不良時には早期に受診するように心掛けている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医を継続し職員が受診に同行している。訪問診療の人もあり連携して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在グループホームには看護師が不在であるが、同法人他部署の看護師と連携し、適宜処置や指導を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とはカンファレンス等を通じ、関係作りが出来ている。入院中も訪問し、現状把握に努めている。退院前カンファレンスもお願いさせていただき、情報収集、共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様に入居時に説明している。またその時期が来た場合には再度話をするようにしている。主治医と連携し、ご家族様の希望も取り入れながら支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の事業所の方針を伝え、状態の変化に合わせてその都度話し合い、家族の要望に沿った支援となるよう関係者と連携して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習が実施されており、訓練されているが、実際にそのような場面に直面した時に、慌てず適切な処置が出来るかといえれば心配な点もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回防火・防災訓練を行っている。但し、特に夜間帯に火災や災害が起きた場合、慌てず適切な対処が出来るかといえれば不安な点もある。	法人施設と合同で避難訓練や勉強会を行っている。法人全体での研修会や消防署員から話を聞く機会を持ち、災害対策についての知識を高めるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対し丁寧な言葉遣いをするよう心掛けており、概ね出来ているが職員が忙しい時等に声掛けが雑になることがある。ホール内では排泄の有無等を、大声で伝えぬよう配慮している。夜間ホールで見守りが必要な方には、パーテーションでプライバシーを確保している。	一人ひとりを尊重し丁寧な言葉使いを心がけている。排泄時の声がけや入浴の際は羞恥心に配慮して支援している。特に排泄で失敗があった時は傷つけないよう対応に気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中から希望を読み取ろうと努力しており、概ね出来ている。但し、会話が出来ない入居者様の意向が汲み取れていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様中心の視点を持っており、職員の都合で入居者様のペースを乱すようなことはほぼ行われていない。但し、全ての行動について希望に沿っているかという点、希望通りでない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人がその日に着る服を選択するという支援は出来ていないが、なるべく清潔で綺麗な服を着ていただくという点は出来ている。外出時や誕生会でお化粧をすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	グループホーム内で食事を作る時に、皮むきや盛り付け、後片付けを一緒にしていただくこともある。メニュー作りは職員が入居者様の好みを聴きながら行っている。	利用者の好みを取り入れ手作りしている、食材の皮むきや盛り付け、片付け、食事メニューを書道で書く人もありで参加している。介助の必要な人にはゆっくり声かけし落ち着いて食べられるよう対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については毎食後記載し把握している。メニューは栄養士に見てもらい、栄養バランスにも配慮している。規則的な排便のことも考え、積極的な水分摂取を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で義歯を洗える方には洗っていただくようにしている。歯ブラシによる歯磨きも同様。全員ではないが、定期的な歯科受診をし、現状維持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	適宜声掛けしトイレ誘導することにより、失敗のない、あるいはあっても不快な時間となるべく少なくなるように努めている。ただ、これが自立に向けた支援なのかといわれると疑問である。	利用者の動きや表情を見たり、時間の間隔などを考慮しながら声がけして一人ひとりに合わせた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人に合わせ、ヨーグルト等の乳製品やバナナ等を提供している。また排便日やその量を記録し、下剤の調整も適宜行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	適切な湯温、室温で入浴していただいている。シャワー浴の場合は足浴も行っている。但し、入浴時間や順番については、職員の都合になってしまうことが多い。	現在時間帯や回数を希望する人はいないが、体調や希望を確認しながら夕食前に入浴している。希望する入浴剤やシャンプーを使う人もあり個々の楽しみとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お好きな時間に、たたみスペース(冬はこたつ)やソファで休んでいただいている。夜間は見守り希望がある方については、ホールのベッドでパーテーションを使用し、プライバシーに配慮しながら休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は職員がすぐに見ることが出来る。服薬方法は入居者様それぞれであるが、事故のないよう注意している。新しい薬が出された時には、本人様の様子を申し送り、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日とはいかないが、周辺の散歩、音楽鑑賞、畑での野菜収穫、習字やノンアルコールビールを飲んでいただいたりして、気分転換ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	周辺の散歩や日光浴等は毎日ではないが、日常的に行っている。行事計画での外出は、気候の都合もあり、最近では行っていない。その代わりに、受診終了後にお店で買い物をする機会を意識的に設けている。ご家族様のご希望により外出の際は、職員が付き添い支援している。	日常的に天候の良い日は散歩をしたり、外に出て外気に触れるようにしている。受診の帰りには買い物に行く時間を設け利用者の楽しみとなっている。家族と外出、外泊をする人もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は金庫で保管し、出納担当職員のみが出し入れするようにしている。受診費用や散髪代、嗜好物(ノンアルコールビール等)はそこから支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自らが電話したり手紙を出したりすることはないが、「家に電話を掛けたい」との要望があれば、ご家族様に確認し、了解を取った上でお話していただくことがある。手紙は毎月職員が写真付きの近況報告のお便りを出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やトイレの場所を間違えないように声掛けを行っている。ホール、居室等の温度、湿度に気配りをしている。冬季には干し柿を吊るしたりこたつを出したりしているが、1年を通した季節感という点では少し弱い。	ホールにはソファを各所に設置して、中央には畳コーナーもあり自由に過ごせる環境づくりをしている。台所との距離も近く料理の匂いを感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子やソファ、たたみスペースでゆっくり過ごせるような工夫をしている。またホールでは話し相手を考慮し、一緒に歌を歌ったり、カルタ取り、体操等を取り入れる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具や衣類を持参していただいている。またベッドの向き、高さ、エアーマット等で快適な睡眠がとれるような工夫をしている。転倒、転落がないよう、配置にも配慮している。	使い慣れた家具や寝具、衣類を持参してその人らしい居室となっている。転倒に配慮して夜間にマットを設置し安全に過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は歩行時の妨げとならないよう、出来るだけ障害となる物を置かないように心掛けている。但し殆どの方に援助が必要なので、自立した生活が送れるという点においては、その限りではない。		